

令和8年度 一般選抜（後期日程）

小論文

試験問題

社会領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて5ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は3ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

社会領域専攻

（ 5 枚の 1 ）

次の文章と漫画は、北原モコットウナシ著・田房永子漫画『アイヌもやもや』（303BOOKS、2023 年）の一部である。これを読み、次の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、文章の一部を改めた。

本書では、アイヌをはじめとしたいくつかの民族について述べてきました。ここまで読み進める中で、皆さんは自分をどの民族に引きつけてきたでしょう。アイヌでも奄美・琉球でも外国ルーツでもないという方は「日本人」、この本の呼び方でいえば和民族に当たるのかもしれませんが。「和民族」はほぼ初めて触れる言葉なのでちょっと置いておくとして、自分は日本人だ、とも意識したことが無いという人も多いのではないかと思います。

私は、授業などで「自分は何民族か」を考えてみてほしいと呼びかけます。学生の感想に一番多いのは「民族というか強いて言えば日本人だが、これまで取り立てて意識したことがない」という意見です。…（中略）…2022 年前期に、私のある授業でアイデンティティについて任意のアンケートをとってみました。授業に出ていた学生 157 名のうち 129 名が回答してくれ、自分のアイデンティティとして「和民族」を選択した学生は 92% でした。そのうち講義を受けるまで自分のアイデンティティを意識していなかったと答えた学生は 82% でした。これらの学生のほとんどが日本語・日本文化で生活し、おそらくこれまで他にルーツがある可能性を考えたこともなかったと思われます。はたから見れば日本人・和民族と考えるのがもっとも自然に見えるのですが、自分ではそうは思っていないのです。

和民族に限らず、マジョリティは一般的に自分の属するカテゴリーのことをほとんど意識しません。この理由として文化心理学者の出口真紀子さんは 3 つの点を挙げています。

①マジョリティは、初めから与えられている安定的・居心地がいい環境を特別と感ぜない。

②マジョリティは自分が属するカテゴリーを意識しにくく、自分を個人だと考える。

③マジョリティには、その範囲を示す名前やラベルがない。

①は、…（中略）…客観的に見れば特別に優位な地位にいても、生まれつきであれば、それがふつうになってしまいます。②は、①と関わります。（ A ）の場合は、行動などの制約を受けることで自分の地位を自覚しますが、マジョリティはこうした機会がありません。③も、マジョリティが優位にすることによります。マジョリティは、他の立場（アイヌ、女性、障がい者……）を名付け定義することで、間接的に自分達のアイデンティティを作ってきました。

（B）こうした名づけや定義づけは、優位な人々だけに認められている行為で、劣位の人々による名づけは無視されるか、反発を受けて成功しません。結果として、優位な人々は誰からも名づけられません。周囲に名づけをすることで自分達の輪郭はできているので、自分自身でも名づけをする必要はないのです。

社会領域専攻

（ 5枚の2 ）



- 問1 空欄 (A) には「マジョリティ」の対義語が記されている。それを踏まえて空欄 (A) に入れるのに最も適切な語彙を記しなさい。
- 問2 漫画の右側3コマ目に記される「え～なんかやだなァ」という言葉は、どういう理由から発せられたと考えられるか。下線部 (B) の内容を踏まえながら、300字以内で説明しなさい。
- 問3 あなたが小学校高学年あるいは中学校、高等学校の教員であるとし、あなたが担当する授業において、複数の児童あるいは生徒が「日本社会には深刻な差別はない」と述べ、クラス全体がそれを肯定する雰囲気になっていると仮定する。このような場面で、あなたなら教員として、差別のない社会の実現のためにどのような行動をとるべきと考えるか。上の文章・漫画を踏まえて800字以内で説明しなさい。

3～5枚目は下書き用紙のため省略します。

令和8年度 一般選抜（後期日程）

小論文

試験問題

英語領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて5ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は3ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

英語領域専攻

(5 枚の 1)

次の英文を読んで、以下の問いにすべて日本語で答えなさい。

Speech is so familiar a feature of daily life that we rarely pause to define it. It seems as natural to man as walking, and only less so than breathing. Yet it needs but a moment's reflection to convince us that this naturalness of speech is but an illusory feeling. The process of acquiring speech is, in sober fact, an utterly different sort of thing from the process of learning to walk. In the case of the latter function, culture, in other words, the traditional body of social usage, is not seriously brought into play. The child is individually equipped, by the complex set of factors that we term biological heredity, to make all the needed muscular and nervous adjustments that result in walking. Indeed, the very conformation of these muscles and of the appropriate parts of the nervous system may be said to be primarily adapted to the movements made in walking and in similar activities. In a very real sense the normal human being is predestined to walk, not because his elders will assist him to learn the art, but because his organism is prepared from birth, or even from the moment of conception, to take on all those expenditures of nervous energy and all those muscular adaptations that result in walking. To put it concisely, walking is an inherent, biological function of man.

Not so language. It is of course true that in a certain sense the individual is predestined to talk, but that is due entirely to the circumstance that he is born not merely in nature, but in the lap of a society that is certain, reasonably certain, to lead him to its traditions. Eliminate society and there is every reason to believe that he will learn to walk, if, indeed, he survives at all. But it is just as certain that he will never learn to talk, that is, to communicate ideas according to the traditional system of a particular society. Or, again, remove the new-born individual from the social environment into which he has come and transplant him to an utterly alien one. He will develop the art of walking in his new environment very much as he would have developed it in the old. But his speech will be completely at variance with the speech of his native environment. Walking, then, is a general human activity that varies only within circumscribed limits as we pass from individual to individual. Its variability is involuntary and purposeless. Speech is a human activity that varies without assignable limit as we pass from social group to social group, because it is a purely historical heritage of the group, the product of long-continued social usage. It varies as all creative effort varies—not as consciously, perhaps, but none the less as truly as do the religions, the beliefs, the customs, and the arts of different peoples. Walking is an organic, an

英語領域専攻

(5 枚の 2)

instinctive, function (not, of course, itself an instinct); speech is a non-instinctive, acquired, "cultural" function.

【出典】 Sapir, E. (1949). *Language*. Harcourt Brace Jovanovich.

問1 上記の英文を 200 字程度で要約しなさい。

問2 筆者の主張を踏まえて、あなたにとって言語とはどのようなものかを、600 字以内で述べなさい。

令和8年度 一般選抜（後期日程）

小論文

試験問題

数学領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて11ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は6ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答欄が足りない場合は解答用紙の裏面を使用しても問題ありません。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

数学領域専攻

（11枚の1）

設問 1

11枚の2から11枚の3で引用したものは「【数学編】中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」118～119 ページである。この文章を読んで、一次関数の指導における「表、式、グラフ」について、どのように関連付けて指導することが望ましいか論述せよ。なお、解答用紙は多めに用意してあるので、すべてを埋める必要はない。

数学領域専攻

（11枚の2）

一次関数が、一般的に、 a 、 b を定数として、 $y=ax+b$ という式で表される関係であることを理解する。そして、事象の中には一次関数を用いて捉えられるものがあることを知る。

第1学年における比例、反比例の学習の上に立って、具体的な事象について伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの間にどのような関数関係があるか、また、それがどのような式やグラフで表されるかなどを考察する。比例関係は、一次関数 $y=ax+b$ の特別な場合である。

二元一次方程式を関数を表す式とみること（アのウ）

二元一次方程式 $ax+by+c=0$ を、二つの変数 x と y の間の関係を表した式とみれば、この条件を満たす x と y の値の組が考察の対象となる。この式で x と y の値の組を求める場合、 $b \neq 0$ のとき、 x のとり値を一つ決めれば、それに対応して y の値が一つ決まることが分かり、このことから、 $ax+by+c=0$ は、 x と y の間の関数関係を表す式とみることができる。

例えば、二元一次方程式 $x-2y+6=0$ は、 x と y の間の関数関係を表す式とみることができ、またこの式を、 $y=\frac{1}{2}x+3$ と変形することによって、 y は x の一次関数であることが分かる。さらに、二元一次方程式のグラフが直線となることから、連立二元一次方程式の解は座標平面上の2直線の交点の座標としても求められる。グラフを用いることにより、連立二元一次方程式の解の意味を視覚的に捉えて理解することができる。

一次関数の表、式、グラフとそれらの相互関係（イのア）

第1学年では、生徒自らが関数関係にある二つの数量を取り出し、表、式、グラフを用いてそれらの変化や対応に関する特徴を考察し表現することについて学習している。第2学年では、これらの学習の上に立って、一次関数の特徴を表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、一次関数についての理解を深める。

これまでの、関数の変化の仕方を捉える際に、表を基にして対応する数量の比を考えたり、増加するか減少するかを考えたりしてきた。一次関数の変化の仕方については、更に明確に捉えるために、 x の増加量に対する y の増加量の割合である変化の割合について学習する。

一次関数 $y=ax+b$ について、変数 x の値が x_1 から x_2 まで変化すると、それに伴って変数 y の値も y_1 から y_2 まで変化するものとする。このとき、変化の割合 $\frac{y_2-y_1}{x_2-x_1}$ は、常に一定で a に等しい。これは、一次関数の特徴であって、グラフが直線になることを意味している。

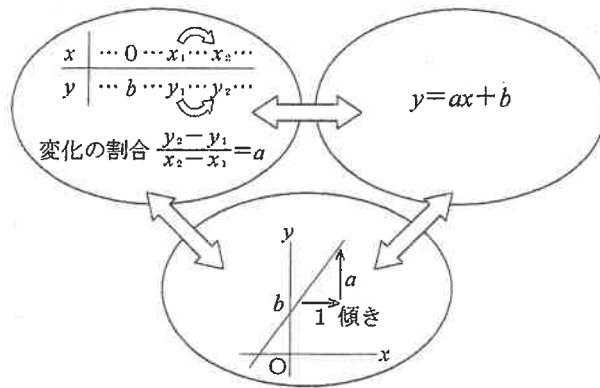
このような変化の割合についての考察を通して、 x の係数 a は、 x の値が1だけ増加したとき、対応する y の値がどれだけ増加するかを表していること、さらに、

数学領域専攻

（11枚の3）

x の値の増加に対しての y の値の増加分も、 a の値を基にして求められることなどを理解できるようにする。

一次関数 $y=ax+b$ のグラフは直線であり、 a は直線の傾きを決めるものであるから、 y のとり値の増減については、傾き a の正、負によって判断できる。また、 b は $x=0$ に対応する y の値であり、それは、グラフと y 軸との交点の y 座標であることも理解できるようにする。



なお、変化の割合を指導する際には、形式的に変化の割合を計算して求めることに偏らないようにするとともに、変化の割合を事象の考察やその表現に適切に用いることができるようにすることが大切である。

一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること（イのイ）

第1学年でも指導したように、日常の事象や社会の事象及び数学の事象には、関数関係として捉えられるものが数多く存在する。ここでは、一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを指導する。事象を捉え考察し表現する際には、何を明らかにしようとするかという目的意識をもち、事象をどのように捉え、数学の対象にするのかを明確にした上で数学的に表現した問題を見いだすことが求められる。その上で問題を解決する際には、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し的確に表現することが大切である。

具体的な事象の中から観察や操作、実験などによって取り出した二つの数量について、事象を理想化したり単純化したりすることによって、それらの関係を一次関数とみなし、そのことを根拠として変化や対応の様子を考察したり予測したりすることができる。例えば、水を熱した時間と水温の関係を調べる際、実験を基にグラフを作成して考察する。ここで、実験によるデータの点がグラフではば一直線上に並んでいることを基にして、一定の熱量で加熱しているなどと理想化したり、熱した時間だけで水温が決まると事象を単純化したりすることによって、二つの数量の関係を一次関数とみなす。その上で、一次関数を式に表し、それを基にして水がある温度になるまでの時間を予測し、その根拠を説明する。また、実験の結果と予測を比較・検討し、伝え合う活動を通して、結果と予測に違いがある原因について考えたり、よりよい予測のための手立てを工夫したりすることもできる。

数学領域専攻

（1 1 枚の 4）

設問 2

1 1 枚の 5 で引用したものは、「京極一樹著、ちょっとわかればこんなに役に立つ 中学・高校数学のほんとうの使い道、実業之日本社、(2011)」62～63 ページである。これを参考にして、次の小問に答えよ。ただし、 $0.301 < \log_{10} 2 < 0.3011$ 、 $0.477 < \log_{10} 3 < 0.478$ であることは用いてよい。なお、解答用紙は多めに用意してあるので、すべてを埋める必要はない。

小問 1

3 の 100 乗が 48 桁であることを、常用対数で桁数が求められる理由も含めて説明せよ。

小問 2

4 の 100 乗は何桁か、求め方も含めて説明せよ。

小問 3

4 の 100 乗の最高位の値の求め方を説明せよ。

数学領域専攻

(11枚の5)

3 2の100乗・3の100乗は何桁か？

●常用対数の整数部分は桁数を示す

常用対数とは、10を底とする対数であり、ある数値Aの「常用対数が1以上」であるとは「Aが10以上」ということを意味します。

同様に「常用対数が2以上」であるとは「Aが100以上」ということを意味します。すると、「常用対数が1以上2以下」つまり $1 \leq \log_{10} A < 2$ という数値の場合には「Aが10以上100未満」ということになります。

ということは、数値Aの整数部分の桁数は「常用対数+1」ということになります。数値Aの整数部分の桁数は常用対数を計算すれば

わかるということです。

●2の10乗V10の3乗

たとえば2の10乗は1024なので、「2の10乗V10の3乗」ということがわかります。ですから、「2の100乗V10の30乗」となり、31桁であることがわかります。

「A V B」は「AがBとほとんど等しくAがBよりわずかに大きい」という意味の記号です。

●3の10乗は何桁か

3の100乗を簡単に計算する手立てはありません。しかし、常用対数を計算すると48桁であることがわかります（右頁下段の説明参照）。

■ 2の100乗・3の100乗は何桁か

2¹⁰⁰や3¹⁰⁰の桁数を計算するには、10を底とした常用対数を計算します。この計算には、常用対数であるlog₁₀2やlog₁₀3の値が必要です。

$$\log_{10} 2 = 0.3010$$

$$\log_{10} 2^{100} = 100 \log_{10} 2 \geq 100 \times 0.3010 = 30.1 > 30$$

$$\log_{10} 3 = 0.4771$$

$$\log_{10} 3^{100} = 100 \log_{10} 3 \geq 100 \times 0.4771 = 47.7 > 47$$

もう少し詳しくいうと、桁数nの数値の常用対数Mは、

$$n \leq M < n+1$$

ということになります。同様に、1以下の数値で小数点以下m桁で初めて0以外の数字が現れる桁数は

$$-n \leq M < -n+1$$

となります。

■ 対数の種類と表記

対数は「底」と「真数」で構成されます。底が変わると対数の大きさが変わります。底が大きくなると対数は小さくなります。

底が10の対数を常用対数、底がネイピアの数eである対数を自然対数と呼びます。これらの場合は底の表記を省略する場合があります。また、底がeである場合、底を省略した上で「log」の代わりに「ln」と表記することもあります。

$$\log_{10} x = \log x$$

$$\log_e x = \log x = \ln x$$

対数の整数部分は「指標」、小数部分は「仮数」と呼ばれます。底が10の場合は、整数部分の桁数が「指標+1」であり、仮数は小数部分に対応します。

$$\log_{10} x = \overbrace{p}^{\text{整数}} \cdot \overbrace{q_1 q_2 q_3 q_4 \dots}^{\text{小数点}}$$

↑ ↑
底 指標 仮数

令和8年度 一般選抜（後期日程）

小論文

試験問題

理科領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて8ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は5ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

理科領域専攻

（ 8枚の1 ）

問1 次の文章を読んで、以下(1)、(2)に答えよ。

著作権の関係上、掲載できません。

理科領域専攻

（ 8 枚の 2 ）

（チャールズ・H・ラングミュアー、ウォリー・ブロッカー著、宗林由樹訳『生命の惑星 ―ビッグバンから人類までの地球の進化』2014 年、京都大学学術出版会、pp.184-185 より抜粋、一部改変）

- (1) 地球の宝箱と称される資源は 2 種類に分けられることが述べられている。2 種類の区分の名称、区分される理由、および、それぞれの区分に含まれる資源の例を、200 字以内で記せ。
- (2) 著者の文章は下線部で終わっている。下線部の著者の意図を汲みとり、科学が今後どのように発展すべきかについて、あなたの考えを 400 字以内で記せ。

理科領域専攻

（ 8枚の3 ）

問2 次の文章を読んで、以下の(1)、(2)に答えよ。

著作権の関係上、掲載できません。

（板倉聖宣 『新版 科学的とはどういうことか いたずら博士の科学教室』2018年、仮説社、pp.135-138より抜粋、一部改変）

- (1) 「実験の前に予想を立てること」の意義に対する著者の主張を200字程度でまとめよ。
- (2) (1)の著者の主張以外の意義を1つ挙げ、具体的な例を挙げて600字程度で説明せよ。

4～8枚目は下書き用紙のため省略します。

令和8年度 一般選抜（後期日程）

実 技 検 査
＜イメージデッサン（鉛筆）＞

試験問題

美術領域専攻（美術分野）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

令和８年度 一般選抜（後期日程） 実技検査＜イメージデッサン（鉛筆）＞ 試験問題

美術領域専攻（美術分野）

（ １ 枚の １ ）

問題

早朝の体育館を想像して描きなさい。

注

- 1) 画用紙の縦横は自由とする。
- 2) 実技検査受験番号シールは作品右下に貼ること。

令和8年度 一般選抜（後期日程）

実技検査 ＜楽典＞

試験問題

音楽領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

音楽領域専攻

（ 2 枚の 1 ）

- 1 次の音程を答えなさい。（ただし複音程は単音程になおして答えなさい。）

(1) Treble clef, G4 to Bb4. (2) Bass clef, G3 to G4. (3) Bass clef, G3 to G4. (4) Treble clef, G4 to Bb4. (5) Bass clef, G#3 to A3. (6) Bass clef, G3 to Bb3. (7) Bass clef, G3 to A3. (8) Bass clef, G3 to Bb3. (9) Treble clef, G4 to A4. (10) Bass clef, G3 to A3. (11) Bass clef, G3 to A3. (12) Treble clef, G4 to A4.

- 2 指示された音階を（１）（２）は調号を用いて、（３）（４）（５）（６）は臨時記号を用いてつくりなさい。（ただし短調は旋律短音階上行形で答えなさい。）

- （１） C・dur の属調の平行調を下属調とする調
- （２） gis・moll の平行調の下属調を同主調とする調
- （３） G・dur の同主調を平行調とする調
- （４） 日本の音階のうち、変イ音より開始する民謡音階
- （５） ト音より開始する沖縄音階
- （６） 嬰へ音より開始する都節音階

- 3 調名を日本語で答えなさい。

- （１） C・dur の第Ⅳ音の異名同音を導音とする長調
- （２） g・moll の旋律的短音階上行形第Ⅵ音を第Ⅲ音とする短調
- （３） G・dur のⅦの和音をⅡの和音とする調
- （４） d・moll のⅥの和音をⅣの和音とする調

音楽領域専攻

（ 2枚の2 ）

4 次の楽語の意味を答えなさい。

- (1) L'istesso tempo
- (2) amoroso
- (3) rallentando
- (4) ben marcato
- (5) con sentimento
- (6) deciso

5 譜例にある和音の中から以下に該当するものを全て選び、その数字を記しなさい。

- (1) ～ (3) はいずれの転回形であっても合致するものを記入すること。
- (4) (5) はいずれの和音であっても合致するものを記入すること。

- (1) 属七の和音
- (2) 減七の和音
- (3) 短三和音
- (4) 第一転回形の和音
- (5) 第二転回形の和音

The musical score is in G major (one sharp) and 2/2 time. It consists of 11 measures, each containing a single chord. The chords are labeled with circled numbers 1 through 11. The notes for each chord are as follows:

Measure	Notes (Bass to Treble)
①	G2, B1, D2, E2
②	G3, B3, D4, E4
③	G4, B4, D5, E5
④	G5, B5, D6, E6
⑤	G6, B6, D7, E7
⑥	G7, B7, D8, E8
⑦	G8, B8, D9, E9
⑧	G9, B9, D10, E10
⑨	G10, B10, D11, E11
⑩	G11, B11, D12, E12
⑪	G12, B12, D13, E13

令和8年度 一般選抜（後期日程）

小論文

試験問題

体育領域専攻

注意事項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題を開いてはいけません。
2. この試験問題の表紙に記載されている専攻が、自分が受験する専攻と一致しているか確認してください。
3. 試験問題と解答用紙は別になっています。
4. 試験問題は表紙を除いて3ページ（下書用紙を含む）、解答用紙は2ページとなっています。落丁、乱丁及び印刷不鮮明な箇所等があれば、すぐ申し出てください。
5. 監督者の指示に従って、解答用紙すべてのページに受験番号を必ず記入してください。氏名を記入してはいけません。
6. 解答に字数制限がある場合、句読点は字数に数えます。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。試験問題は持ち帰ってください。
8. その他のことについては、監督者の指示に従ってください。

体育領域専攻

（3枚の1）

問い

体力は行動体力と防衛体力で構成され、スポーツ種目のパフォーマンスを高めるためには行動体力の各要素を向上させることが重要になります。そこで、行動体力の要素の内、2つを取り上げてそれぞれの内容を説明し、それらの要素を高めるためのトレーニング方法について具体例を挙げながら800字以内で論じなさい。

2～3枚目は下書き用紙のため省略します。

実技検査概要（体育領域専攻）

I 群

1) 器械運動(マット運動)

- ・連続技1：倒立前転→開脚前転
- ・連続技2：前転→側方倒立回転 1/4 ひねり
- ・連続技3：側方倒立回転跳び 1/4 ひねり(ロンダート)→伸膝後転
- ・単技：後転倒立または跳び前転

2) 器械運動(鉄棒運動)

- ・連続技：逆上がり→後方支持回転→棒下振り出し下りまたは後ろ振り跳び 1/4 ひねり下り
- ・単技1：前方支持回転
- ・単技2：後方片膝掛け支持回転
- ・単技3：蹴上がりまたは膝掛け上がりまたは膝掛け振り上がり

II 群

1) 陸上競技(ハードル走)

- ・80m ハードル(高さの異なる2種類のハードル)

2) 陸上競技(長距離走)

- ・1500m (男子)、1000m (女子)

3) バスケットボール

- ・パス、ピボット、ドリブル
- ・ドリブルシュートとゴール下シュート
- ・ミドルシュート
- ・1対1 (オフェンス)

4) バレーボール

- ・対人パス (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、ツータッチパス)
- ・対人レシーブ
- ・サーブ
- ・スパイク

5) サッカー

- ・ボールリフティング
- ・2対1 (オフェンスを受験者が担当)
- ・ドリブルからミドルシュート
- ・補助員のセンタリング(浮き球)をシュート
- ・コーナーキック